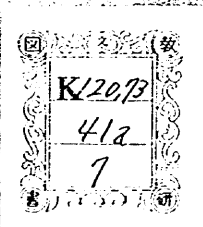


新編
教育唱歌集

文部省檢定
教育音樂講習會編

第七集



K120.73

41a

7

文部省檢定濟

明治三十九年二月二十日

教育音樂講習會編纂
新編
教育唱歌集
第七集

東京
開成館藏版

本書の歌曲は主として、諸大家が特に本書のために新作せられたるものにして、其中特に「音樂學校許可」と註せるものは該校が舊て高等師範學校附屬の時代に歌曲の引用を許可したりし時、特に請ひて、本書に轉載することゝを許されたるものに係り、其他の歌曲は「新撰國民唱歌」及び東京開成館が著作権を有するもの、若しくは本書の編纂に當りて、當該著作権所有者の許諾を得たるものなり。

新編教育唱歌集第七集目次

一 霜の朝……………	一	九 牡丹……………	一七
二 白梅……………	三	一〇 きらめく星……………	一九
三 新年……………	五	一一 花火……………	二一
四 福壽草……………	七	一二 昇る旭……………	二三
五 雲雀……………	九	一三 岩もる水(音楽學校許可)……………	二五
六 花の都……………	一一	一四 牽牛花……………	二七
七 雨中の花……………	一三	一五 雲(音楽學校許可)……………	二九
八 山里……………	一五	一六 騎兵……………	三二

(第七集)

(第七集)

一七 威海衛……………	三四	二六 御國の民(音楽學校許可)……………	五四
一八 五日の風(音楽學校許可)……………	三七	二七 都の雪……………	五八
一九 稻……………	三九		
二〇 卒業のわれ……………	四一		
二一 才女(音楽學校許可)……………	四三		
二二 遊獵(音楽學校許可)……………	四五		
二三 太平の曲(音楽學校許可)……………	四七		
二四 千代田の宮……………	四九		
二五 近江八景……………	五一		

目次終

霜の朝

5 | 1- 6 | 5- 1 2 | 3- 2 | 1- 3 |

(一) ア チー パ モー カー レー ハ モー シ
(二) こ ほー リ なー てー らー し てー の
(三) ノ ガー レ ルー ヒー カー ダ ニー ナ

5- 3 2 | 1- 3 | 2- 5 | 3- 2 | 1- 3 |

ロー クー ミー エ テー シ モー コ ソー ナ
こー るー あー さ のー つ きー か とー み
カー バー トー ケ テー シ ター タ ルー シ

4- 3 | 2- 3 | 5 6 1 2 | 3- 2 | 1- ||

キー タ レー ク サー ノー クー ヘ ニー
えー た るー か げー ばー しー も よー
ブー ク ハー タ マー トー ヒー カ ルー

霜の朝

- (一) 青葉も 枯葉も 白く見えて、
霜こそおきたれ、草の上に。』
- (二) 氷を照して、のこる朝の
月かと思えたる 影は霜よ。』
- (三) 昇れる日影に なかば解けて、
したゝる雫は 玉と光る。』

白梅

(一) 降る雪の中に 咲きにほふ白梅。

なつかしの心や。 かわれ世に高く。

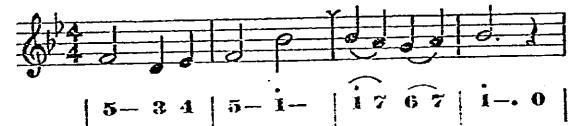
(二) 暗の夜の星と 見えまがふその色。

いさぎよき姿や。 かわれ世に遠く。

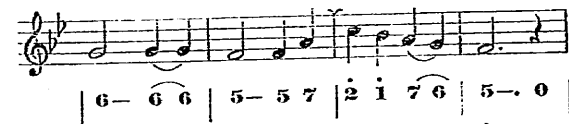
(三) さきがけて開く 花の中のこのかみ。

たぐひなき色香や。 かわれ世に廣く。

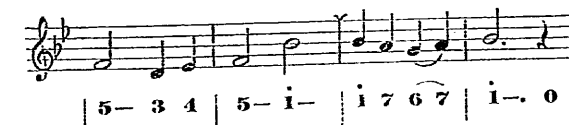
白梅



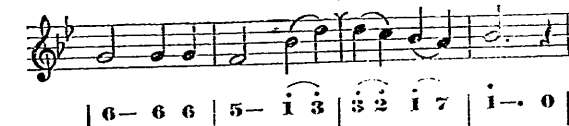
(一) フー ル ユ キー ノー ナー カー ニー
(二) やー み の よー のー ほー しー とー
(三) サー キー ケー テー ヒー ラー クー



サー キー ニー ホ フ ハ ク パー イー
み えー まー が ふ そ の いー るー
ハ ナ ノ ウー チ ノ コ ノ カー ミー



ナー ツ カ シー ノー コ コ ロー ヤー
いー さ き よー きー す が たー やー
あー ク ヒ ナー キー イ ロ カー ヤー



カー ナ レ ヨー ニー ター カー クー
かー な れ よー にー とー ほー くー
カー ナ ヨー ニー ヒー ロー クー

新年

(一) めでたき御代の年の始

むかへて、祝はね里もなし。

きけや森にも、野山にも、

君が代うたふ聲すなり。」

(二) たがひに逃ふる年の祝

かはらぬ御代こそうれしけれ。

はげめ人々、一年の

めでたき今日を門出にて。」

新年



5 | 5. 6 5 3 | 3- 1 1 | 5. 5 6 4 | 3- 0 |

(一) メ デ タ キ ミ ヨー ノ ト シ ノ ハ シ メー

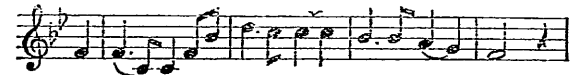
(二) た が ひ に の ぶ る と し の い は ひー



3 | 2. 5 5 5 | 6. 6 5 5 | 4. 1 3 4 | 5- 0 |

△ カ ヘ テ イ ハ ハ ヌ サ ト モ ナー シー

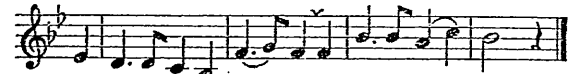
か は ら め み よ こ そ う れ し げー れー



5 | 5. 2 2 5 1 | 3. 2 2 2 | 1. 1 7 6 | 5- 0 |

キ ケー ヤ モー リ ニ モ ノ ヤ マ ニー モー

は げー め ひー と び と ひ と と せー のー



4 | 3. 3 2 1 | 5. 6 5 5 | 1. 1 7 2 | 1- 0 ||

キ ミ ガ ヨ ウ ター フ コ エ ス ナー ヴー

め で た き け ふー な か ど で にー てー

福壽草

(一) 床にかざれる 福壽草

けふ咲きそめぬ

やさし。うれし。

(二) その名めでたき 福壽草

黄金のいろも

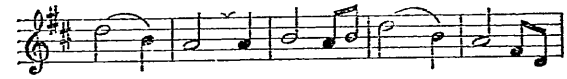
ゆかし。うれし。

福壽草



1 | 3-21 | 6.22 | 1-5 | 6-56 |

(一) ト コーニ- カザレ ル- フ タ- --
(二) そ の- な- めでた き- ふ、く- --



1-6 | 5-5 | 6-56 | 1-6 | 5-31 |

ジュ- ソーケ フーサー キー- ソーメ-
じゅ- そーこ がーれ- のー いーろ-



2-1 | 3-21 | 6.22 | 1- ||

メ- ヤ サー シー ウー レ シー
も- ゆ か- し- う- れ し-

雲雀

- (一) 朝日はみそらに、光は野邊に、
今こそどけき春日のあした、
雲雀は草葉の床よりいでて、
うたごゑ高くぞ雲ねにあそぶ。
- (二) たのしき歌ごゑ。嬉しき調。
すみれの朝露つばさにちらし、
のぼるよ、雲雀は富士より上に。
ひびくよ、唱歌はかすめる空に。

雲雀

5. 5 1 1 | 3. 1 2 2 | 4. 6 5. 3 | 4. 2 1 - |

(一) アサ ヒハ ミソラニ ヒカリハ ノベニ
(二) たのしき うたごゑ うれしき しらべ

5. 5 1 1 | 3. 1 2 2 | 4. 6 5. 3 | 4. 2 1 - |

イマ コソ ノドケキ ハルビノ アシタ
すみれの あきづゆ つばさに ちらし

3. 4 5 3 | 5. 3 4 2 | 4. 4 5. 1 | 3. 1 2 - |

ヒバリハ クサバノ トコロニ イデテ
のぼるよ ひばりは ふじより うへに

5. 5 1 1 | 3. 1 2 2 | 4. 6 5. 3 | 4. 2 1 - |

カタゴエ タカクソ クモキニ アソブ
ひびくよ しー かは かすめる そらに

花の都



0 5 1 2 | 3 4 3 2 1 | 2 5 5 5 | 3 5 5 5 5 |
 (一) ハ ナ ノ ミ ヤー コ ノ オ モ シ ロ ハ ル ベ ヤ
 (二) ス み だ う へー の に ふ ね く ま つ れ て
 (三) ハ ス ノ ハ ナー サ ク シ ノ バ ズ ノ イ ケ ニ ハ
 (四) つ き は い づ こ ぞ す み だ が は し ば う ら
 (五) ハ し ナ ノ ウ へー ノ モ ツ キ カ タ ノ ス ミ ダ モ
 (六) し ば の あ た り へ の ぼ つ み や れ ば
 (七) シ キ ノ ナ ガー メ チ モ テ ア ツ プ ヒ マ ニ モ



0 5 1 2 | 3 4 3 2 1 | 5 2 | 2 3 2 1 |
 ヨ モ ニ コ コー ロ ザ ウ カ ー ルー ル
 ば な に く らー す か ひ と ー びー と
 ヌ フ ヒ ス ズ シ め ン ノ コ レ ー レー リ
 た れ な が シ モー ノ ミ シ ロ ー クー テ
 ア ハ レ シ み やー こ ミ ロ ブ ー けー し
 け ヨ ノ メ ガー ミ ナ

花の都

- (一) 花の都のおもしろの春べや。四方に心ぞうかる。
- (二) 隅田上野に船車つられて、花にくらすか人々。
- (三) 蓮の花さく不忍の池には、夕日すすくのこれり。
- (四) 月はいづこぞ。隅田川芝浦。たれとながめん、船にて。
- (五) 花の上野も、月かげの隅田も、あはれ、霜のみ白くて。
- (六) 芝の愛宕に登りつゝ、見やれば、今朝は都もしづけし。
- (七) 四季のながめを玩ぶひまにも、御代の恵を忘るな。

雨中の花



1.2 3.2 1.6 5.3 1.2 3.2 3.5 2- |

(一) チラ チラ チラ チラ クサ バノ ウヘ ニー

(二) はら はら はら はら しづ くと とも にー



1.2 3.2 1.6 5.3 1.6 5.3 2.3 1- |

オト ナク オツ ル ハ ア ラ ネ カ ユ キ カー

こぼ る る み ぞ れ は さ く ら の は な かー



3.4 5.6 5.3 5.3 1.2 3.4 3.2 1.7 |

ヘル キ メ シ ツ ケ キ ユ フ ベ ノ ニ ハ ター

ひば り も こ ぶ せ め ゆ ふ べ の そ ら にー



1.2 3.2 1.6 5.3 1.6 5.3 2.3 1- ||

シバ サ ヘ イ シ サ ヘ マ シ ロ ニ ツ ノ テー

くれ ゆ く は る び の し つ り さ み せ てー

雨中の花

(一)

ち ら く く く 草 葉 の 上 に、

音 な く 落 つ る は 霞 か 雪 か。

春 雨 し つ け き 夕 の 庭 を、

芝 さ へ 石 さ へ 眞 白 に そ め て。」

(二)

は ら く く く 雲 と 共 に、

こぼ る 雲 は 櫻 の 花 か。

雲 雀 も 聲 せ ぬ 夕 の 空 に、

くれ ゆ く 春 日 の 静 け さ 見 せ て。」

山
里

(一)

櫻^{さくら}

もちりて、

春^{はる}

くれかゝる

奥^{おく}山^{やま}

さびし、

とふ人^{ひと}たえて。里^{さと}

のたよりを

まれに告^つぐるは、草^{くさ}かる男^{おとこ}蕨^{わらび}とる兒^こら。

(二)

千^ち草^{ぐさ}

もかれて、

秋^{あき}

くれかゝる

山^{やま}里^{さと}さびし、雨^{あめ}さへふりて。

おち

葉^はの上^{うへ}に音^{おと}なふものは笥^{かげひ}

のしづく、

猿^{さる}のさけび。山
里

| 5 6.5 3 5 | 1̇ 2̇.1̇ 6- | 5. 6 5 3 | 3 2 1 2- |

(一) サク-ラモ チリ-テ- ハル クレ カカ-ル-

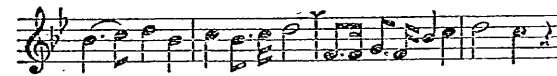
(二) ちぐ-さし かれ-て- あき くれ かか-る-



| 5 6.5 3 5 | 1̇ 2̇.1̇ 6- | 5. 6 5 3 | 2. 3 1- |

オク-ヤマ サビ-シ- トフ ヒト タエ-テ-

やま-ざと さび-し- あめ さへ ふりて-



| 1̇. 2̇ 3 1̇ | 2̇ 1̇. 2̇ 3- | 5. 5 6. 5 1̇ 2̇ | 3- 2̇ 0 |

サ-トノ タヨリチ-マ-レニツグ ル-ハ

おちばの うへ-に- おとなふも- の-は



| 5 6.5 3 5 | 1̇ 2̇.1̇ 6- | 5 1̇. 2̇ 3 1̇ | 2̇- 1̇ 0 ||

クサ-カル チト- コソラビトル コ-ラ

かけ-ひの しづく- ましらのさ け-び

牡丹

(一) 夕日ゆふひのころ花園はなぞのに

さきてにほへる紅くれなゐの

ぼたんの花はなうつくしや。

蝶ちりの羽風はかぜころせよ。

(二) 露つゆのおける草くさむらに

ちりてにほへる白妙しろたへの

ぼたんの花はな美うつくしや。

ふむな少女をとめ氣きをつけて。

牡丹

牡丹

(一) ユフヒノコロハナゾノニホヘルクレナノ
(二) ツヨウノオケルクサムラニチリテニホヘルシロタヘノハナウツクシヤ。
チリハカゼコロセヨ。
フムナオトメキヲツケテ。

きらめく星

(一) みそらに花の 咲くか 見えて

光を ちらす 百千の星は、
旅ゆく人の 夜道のたより、

海ゆく人の 船路のしるべ。

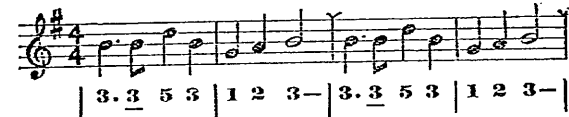
(二) しづかに秋の 夜も ばやふけて、

見わたすかぎり、星のみ白く

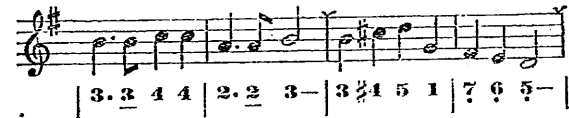
玉かとばかり きらめく雲ね、

仰げば 望めば 遠し。

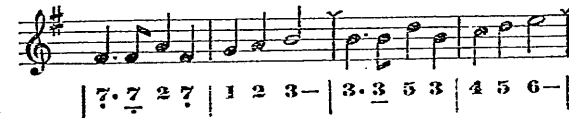
きらめく星



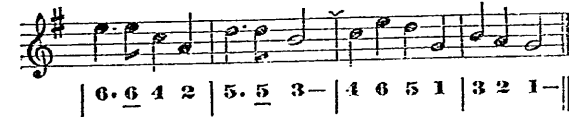
(一) ミソラニ ハナ ノー サク カト ミエテ
(二) しづかに あきの よし ばや ふけて



ヒカリチ ナラ スー モチノ カシハ
みわたす かぎりー ほしのみ しるくー



タビユク ヒト ノー ヨミチノ タヨリー
たまかと ばかりー きらめく くもぬー



カミユク ヒト ノー フナゲノ シルベ
あふげば ひろしー のぞめば とほしー

花 火



| 3 3. 0 | 3 3. 0 | 3 2 3 | 5 4 3 | 2 0 |

(一) アレ アレ アガシハナビ
(二) あれ あれ みよはなび



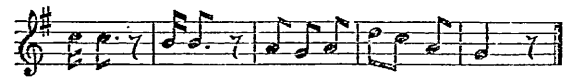
| 2 2. 0 | 2 1 2 | 3 0 | 3 3. 0 | 3 2 3 |

アレ ヒラケテ アレ ハナカ
あれ うつくし あれ たのし



| 5 4 3 | 2 1 2 | 5 4 2 | 1 0 | 6 6. 0 | 5 5. 0 |

ホシカソラチテラス アレ アレ
うれしそらにもえぬ あれ あれ



| 4 4. 0 | 3 3. 0 | 2 1 2 | 5 4 2 | 1 0 |

アレ アレ ミヅチテラス
あれ あれ そらにきえぬ

花 火

(一)

あれ、あれ、あがる花火。

あれ、開けて、あれ、花か星か。

空を照す。

あれ、あれ、あれ、あれ、水を照す。

(二)

あれ、あれ、見よや、花火。

あれ、美し。あれ、楽し。うれし。

空に燃えぬ。

あれ、あれ、あれ、空に消えぬ。

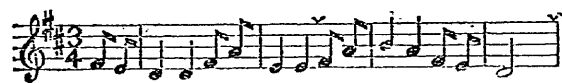
(一) 東^{ひがし}の^みそ^らに^かが^やきの^ぼる
朝^{あさ}日^ひの^はた^こそ、^せ界^{かい}を^て照^てる
わ^が日^ひの^もと^のは^てな^き光^{ひかり}」

(二) 櫻^{さくら}の^こ梢^{すゑ}に^かが^やき^わたる
朝^{あさ}日^ひの^はた^こそ、^ち球^{きゅう}に^しめ^す
わ^が日^ひの^みい^つの^しる^し」

(三) 水^{みづ}天^{てん}萬^{ばん}里^りの^う海^{かい}原^{はら}て^らす
朝^{あさ}日^ひの^はた^こそ、^し四^し海^{かい}に^たか^き
わ^が日^ひの^はた^こそ、^さか^えの^さか^えの^さか^え」

昇る旭

昇る旭



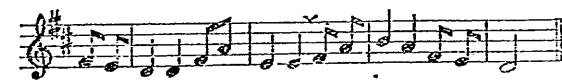
3 2 | 1 1 3 5 | 2 2 3 5 | 6 5 3 2 | 1 - |

(一) ヒガ シノミソ ラニカガ ヤキノボ ルー
(二) さくらのこす 点にかが やきわた るー
(三) スイ テンバン リノウナ バラチラ スー



5 6 | 1 6 5 3 | 2 1 5 6 | 1 6 6 5 | 1 - |

アサ ヒノハタ コソセカ イチテラ スー
あさ ひのはた こそちきい にしめ すー
アサ ヒノハタ コソシカ イニタカ キー



3 2 | 1 1 3 5 | 2 2 3 5 | 6 5 3 2 | 1 - ||

ソガ ヒノモー トノハテ ナキヒカ リー
わが おほきー みのみい つのしる しー
ソガ クニター ミノホマ レノサカ エー

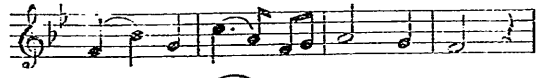
岩もる水



 | 5 1̣ 6 | 5- 3 | 2 5 4 | 3- 0 |

 イーハ モー ル ミーグ モー

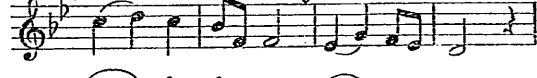
 アーナ オー ヨ シーロ ノー



 | 5 1̣ 6 | 2̣ 7 5 6 | 7- 6 | 5- 0 |

 マ ツ フ ター カー セ モー

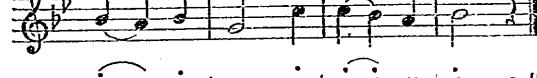
 コ ヨ ヒー ノー ツー キ ヤー



 | 2̣ 3 2̣ | 1̣ 5 5- | 4 6 5 4 | 3- 0 |

 シーラ ベー ナー ソー フー ルー

 コー コ ロー ニー カー カー ルー



 | 1̣ 7 1̣ | 6- 2̣ | 2̣ 1̣ 7 | 1̣- 0 ||

 ツー マ ゴー ト ノー ネ ヤー

 グー ヨ キー 1 ヨー ナ シー

岩もる水

いほもる水も、
まつふく風も、

しらべをそふる つま琴の音や。
あな、面白の 今宵の月や。
心にかゝる 雲霧もなし。」

岩もる水

いほもる水も、
まつふく風も、
しらべをそふるつま琴の音や。
あな、面白の今宵の月や。
心にかゝる雲霧もなし。

岩もる水

いほもる水も、

まつふく風も、

しらべをそふるつま琴の音や。

あな、面白の今宵の月や。

心にかゝる雲霧もなし。

牽牛花



5 | 5 3 4 5 0 5 | 5 1 3 4 5 0 5 | 6 5 3 6 5 3 |
 (一) ソ ガ ニ ハ ノ ア サ ー ガ ホ ヤ ツ ユ チ ガ ビ テ サ
 (二) わ が に は の あ さ ー が ほ や あ さ な あ さ な た



2. 5 | 5 0 2 | 2 3 4 5. 3 | 3 4 5 6 1 |
 ケ ー ル ソ ノ ハ ナ ノ ヲ ツ ク シ サ ア
 え ー ナ あ た ら し く さ き か へ て き



6 5 6 4 3 4 | 2-1 1 | 6 5 6 4 3 4 | 2-1 0 ||
 カ キ ア チ キ シ ロ ー キ シ ホ リ ナ ル モ ア リ ー テ
 か り い と も ひ き し あ は れ や さ し う れ し

牽牛花

(一) わが庭のあさがほや。

露をおびて咲ける その花のうつくしさ。
 赤き青きしろき、しぼりなるもありて。」

(二) わが庭のあさがほや。

朝な夕な、絶えず、あたらしく咲きかへて、
 さかりいとも久し。あはれやさし。うれし。」

雲



(一) マ タ タ ク ヒ マ ニ ハ ヤ マ ナ ホ ヒー ウ
(二) ヲ フ ヒ に い る ど る ほ し な わ た しー み
ナ ミ ル ヒ マ ニ ハ ヤ ミ ナ リー ター ルー クー
そ ら に こ ゑ せ め な み な おー こー すー くー
モ テ フ モー ノ コ ソ ク ス シ ク ア リ ケ レ ク
も て ふ もー の こ そ く す し く あ り け れ く
モ ヨ ク モ ヨー ア メ ト モ キ リ ト モ ミ ル マ ニ カ
も よ く し よー な き か と お も へ ば お ほ ぞ ら お
ハ リ テ ア ヤ シ ク ク シ キ ハ ク モー ロー ク モ ヨー
は ひ て あ や し く く し き は く しー よー く しー よー

雲

(一)

瞬く間には山をおほひ、うちみるひまには海をわたる
雲てふものこそ、くすしくありけれ。雲よ。雲よ。

雨とも霧とも、見るまに變りて、

あやしく奇しきは、雲よ。雲よ。

(二)

夕日にいろどる橋をわたし、みそらに聲せぬ浪を起す
雲てふものこそ、くすしくありけれ。雲よ。雲よ。

なきかとおもへば、大空おほひて、

あやしく奇しきは、雲よ。雲よ。

騎 兵

(一) ミロヤ イサマシ
 (二) みよや たくまし

ヒクメノトドロキ
 くりげのあらごま

コダニヒビキテ
 いななくこゑは

タイゴチタダシ
 やだまのなかも

騎 兵 (つづき)

アシナミソローヘ
 おそれぬひびき

カケクルキヘイ
 いといさまし

アレヨアレヨ
 あれよあれよ

クニマモルモノ
 のなまもかきく

騎兵

- (一) 見^みよや勇^{いさ}まし、蹄^{ひづめ}のとどろき こだまにひびきて、
 隊^{たい}伍^ごをただし、足^{あし}竝^{ならみ}そろへ、かけ来る騎^き兵^{へい}。
 あれよ。あれよ。國^{くに}を守る武^ぶ夫^ふ。」
- (二) 見^みよや。たくまし、栗^{くり}毛^げのあらごま。いなゝく聲^{こゑ}は、
 矢^や玉^{たま}の中^{なか}をも おそれぬ響^{ひびき}。いと勇^{いさ}ましく、
 あれよ。あれよ、野^のをも 山^{やま}も 駈^かけゆく。」

(第七集)

威海衛

威海衛

三四

5. 5. 5. 3. | 2. 1. 2. 3. | 5. 5. 6. 5. | 1 0 |

(一) テー キ ノ カン タ イ タ チ ヤ ア ヴ
 (二) さ れ ど も て き し て い じ ゃ
 (三) ニー ガ ツ ヨ ッ カ ノ ヨ ヒ ヅ キ
 (四) こー べ ん かー れ に こ ぶ あ り て

5. 5. 5. 3. | 2. 1. 2. 3. | 5. 5. 6. 5. | 1 0 |

リョー ジュン キン シュー テニ イ レ テ
 しー めん じー い の う ち に た
 カ グ レ テ クー ラ キ コ ナ イ
 う つ ま のー ぼ る み け る

5. 3. 1. 3. | 2. 1. 2. 3. | 5. 3. 1. 5. | 6 0 |

ホ コ サ キ ス ル ド キ ヲ ガ ゲ ン ハ
 よ く か 人 たー い な し き ス つ
 わ が す い らー い コ エ ツ ス た

5. 3. 4. 2. | 3. 1. 2. 3. | 5. 5. 6. 5. | 1 0 ||

カ イ リ ク カー コ ム イ カ イ エ イ
 ばー せん か おー た る イ し テ
 ヲー が じ っ か せー き ん ノ ス イ
 て い えん かー ー ー ー ー

(第七集)

威海衛

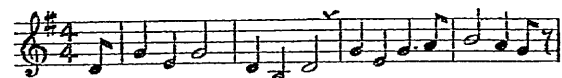
- (一) 敵の艦隊うちやぶり、旅順金州手に入れて、
鋒さき鋭きわが軍は、海陸かこむ威海衛」
- (二) されども敵將丁汝昌、四面重圍の中にたち、
よく艦隊を指揮しつゝ、防戦怠る隙もなし」
- (三) 二月四日の宵月は、かくれて、暗き港内に、
防材のりこえ、突き進む わが十隻の水雷艇」

(第七集)

(第七步)

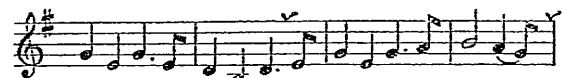
- (四) 轟然かれに聲ありて、渦まきのぼる水烟。
わが水雷は中りたり。定遠艦は沈みたり。」
- (五) これを始に、敵の艦 大かた撃たれ、沈められ、
堅固の陸上砲臺も 碎かれ、焼かれ、用なさず。」
- (六) さしにも猛き丁汝昌、百計今は盡きはてぬ、
無益の殺生何せんと、わが軍門に降りけり。」
- (七) さても、わが罪深しとて、自殺してし丁汝昌。
忠勇義烈、わが軍の 名譽と永くつたはらん。」

五日の風



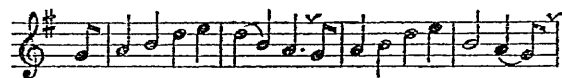
| 5 | 1 6 1- | 5 3 5- | 1 6 1.2 | 3-2 1 0 |

(一) イ ツ カ ノー カ セ モー ト チ カ ノ アー メ モ
(二) と よ あ しー ほ ら のー み づ ほ の くー に は



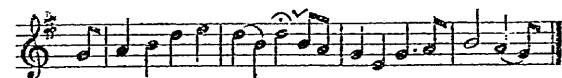
| 1 6 1.6 | 5 3 5.6 | 1 6 1.2 | 3-2 1 |

ト キ ニ シ タ カ フ ヲ ガ キ ミ ガ ヨー キー
ち よ ろ づ よ う ご き な き くー に



| 1 | 2 3 5 6 | 5 3 2. 1 | 2 3 5 6 | 3-2 1 |

ニ シ ノ ク ニ ヨー リ コ マ ク ダ ラ ヨー リー
わ が き み が よー は ち よ ろ づ よー もー



| 1 | 2 3 5 6 | 5 3 5 3 2 | 1 6 1.2 | 3-2 1 ||

ヨ ヲ ク ル ヒ トー モ ミー ヨ イ ハ フ ナー リー
う ご き な き みー よ いー は へ も ろ びー とー

(第七集)

五日の風

(一)

いつかの風も、十日の雨も、
西の國より、高麗百濟より
時に順ふわが君が代や。

(二)

豊葦原の瑞穂の國は、
千世萬世も動きなき國。
わが君が代は、
ちよ萬世も動きなき御代。
いはへもろ人。

(第七集)

(一) 五月雨 そぼふる田にたちて、
うゑたる苗は穂に出でぬ。
昨日のくるしみ、今日のよろこび。
きけや、稲蒔る人のうたを。

(二) 夏の日かがやく田にたちて、
つくりし稲はかりはてぬ。
倉にもみちたり、あふるゝまでに。
おもへ、農夫の秋のこゝろ。

稲

稲

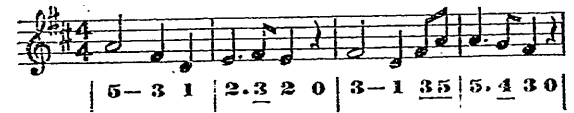
5 5 | 1. 1 6 5 12 | 3 1 6 6. 5 | 5- 0 |
 (一) サミ グレソボ フー ル タニ タチ テー
 (二) なつ の ひかが やー く たに たち てー

1 1 | 2. 1 3 4 5 | 3 3 2 2. 1 | 1- 0 |
 カ エ タ ル ナー ヘ ハ ホ ニ イ テ ヌー
 つく り し いー ね は かり は て めー

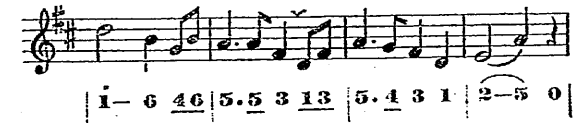
5 5 | 5. 3 1 1 6 | 5 6 6 5 5 3. 4 | 5- 0 |
 キ ノ フ ノ ク ル シ ミ ク フ ノ ヨ ロ コ ビー
 く ら に も み ち た り あ ふ る る ま で にー

5 5 | 6. 5 6 1 3 | 2 3 3 2 1 7 | 1- 0 ||
 キ ャ ヤー イ ホ カ ル ヒ ト ノ ク タ チー
 お も へー のー ふ の あ き の こ こ るー

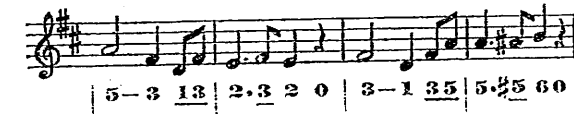
卒業のわかれ



(一) オーナジ マドニ ケーフ ハー カタリ
(二) とーも に まなび とーも にー あそび



トーホ キーソ ラニアース ハハナ ルー
とーも にー きーをりー ふはなへ つー



オーモロー イデアヨ ハーナニー クキニ
なーほもー こころ みーがきー きたひ



ウーダヒー アロシハー ルトアキ ナー
とーも にー ひ との みー ちなゆか んー

卒業のわかれ

(一)

同じ窓に今日は語り、
遠き空に明日は離る。

(二)

共に学び、共に遊び、
共に業を今日は卒へつ。

なほも心研ぎ鍛ひ、
共に人の道をゆかん。

才女



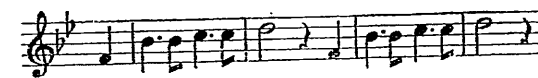
1. 1. 1. 7. | 7 6 0 6 | 5. 3. 3. 2. 1. | 2-.

(一) カキナガセル フデノアヤニ
(二) まきあげたる なすのひよーに



3. 2. | 1. 1. 1. 7. | 7 6 0 6 | 5. 3. 3. 2. | 1-0 |

ソーマシムラサキ ヨヨアセーゾー
きーみのこころも しらゆきーや



5 | 1. 1. 2. 2. | 3-0 5 | 1. 1. 2. 2. | 3-0 |

エカリノイロ コトバノハナ
ろざんのみれー いあいのかれー



2 | 1 7 6 1. 6 | 5 3- 3. 2. | 1 1 3. 2. | 1-0 ||

タケヒモアラージソーノイサーチー
めにみるごときーそーのふぜーい

才女

(一)

かきながせる筆のあやに
そめしむらさき、世々あせず。

ゆかりのいろ、ことばの花

たぐひもあらじ、その功

(二)

まきあげたる小簾のひまに、
君のこころもしら雪や。

廬山の峰、遺愛の鐘

めにみるごとき
その風情

遊 獵

5 | 1 1 1 7 6 | 5 4 3 5 | 1 1 2 7 | 1. 1 |
 (一) サ ナ ガ ラー ヤ マー モ ク ズ ル バ カ リ ニ
 (二) あ し げ の う まー に し づ く ら お き て

5 | 1 2 3 4 | 5 3 1 2 | 3 3 3 2 1 | 2. 2 |
 ナ ノ ヘ ニ ト ヨー ム ヤ ダ マ ノー ヒ ビ キ
 あ づ さ の ま げー み て に と りー し ば り

5 | 1 2 3 4 | 5 3 1 2 | 3 3 3 2 1 | 2. 3 |
 カ ミ テ フ ト ラー モ テ ド リ ニー シ ツ ツ
 み か り た た すー ば ま す ら なー な れ や

2 | 1 1 1 7 6 | 5 4 3 5 | 1 1 2 7 | 1. 1 |
 イ サ ミ ニー イ サー ム マ ス ラ ナ ノ ト モ
 の か り た た せー る そ の い さ ま し さ

(第七集)

遊 獵

(一) さ な が ら 山 も く づ る ば か り に、
 を の へ に と よ む 矢 玉 の ひ び き。
 神 て ふ 虎 も 手 と り に し つ、

(二) 葦 毛 の 馬 に し づ 鞍 お き て、
 あ づ さ の 眞 弓 手 に と り し ば り、
 み か り た、す ば、益 荒 雄 な れ や。
 み か り た、せ る そ の 勇 ま し さ。

(第七集)

太平の曲

(第七集)

太平の曲

(一) ゆはずのさわざ、飛ぶ火の煙、いつしか絶えて、治る御代は、
 天地さへも 轟くばかり、
 萬代までと、君が代いはへ。
 (二) たひらの都、百敷の宮、みあとになして、武藏の國にしづまりましぬ。
 年は三千歳、御功績あふげ。

(第七集)

千代田の宮

(一) 千代田の宮の宮柱 うごかぬ御代は、天地のむた。
 御庭の松のえだ高く なれすむ鶴も、もろともに
 千代よびつれてぞ、舞ひ歌ふ。

(二) 千代田の御城の礎の 動かぬ御代は富士の嶺のこと。
 御池の龜もうかみでて、おのゝ君に萬代の
 齡をさゝげて、舞ひあそぶ。

(三) わが大君のみめぐみは 山とし高く、海とし深し。
 よろこびうたへ、國の民、千代田の御城の雲わまで
 とどろく唱歌の聲たてて。

(第七集)

千代田の宮

(第七集)

- (一) 千代田の宮の宮柱 うごかぬ御代は、天地のむた。
 御庭の松のえだ高く なれすむ鶴も、もろともに
 千代よびつれてぞ、舞ひ歌ふ。
- (二) 千代田の御城の礎の 動かぬ御代は富士の嶺のこと。
 御池の龜もうかみでて、おのゝ君に萬代の
 齡をさゝげて、舞ひあそぶ。
- (三) わが大君のみめぐみは 山とし高く、海とし深し。
 よろこびうたへ、國の民、千代田の御城の雲わまで
 とどろく唱歌の聲たてて。

(一) 三井寺のかねの音 すみ渡る夕ぐれ、
 はつ雁も、堅田に 唐崎の老松は。
 ひとり立ち、 雨か、波か、 粟津のあき風。
 今もなほ身に、 瀬田の夕日、 比良の暮雪、
 (二) 月のかげさやかに、 千代かけてしのぶは、
 やまだ矢走、 さしてかへる、 舟の帆も三つ四つ。
 (三)

近江八景

近江八景

5. 1 | 3 2. 1 2 1 3 | 5-0 3. 1 | 5 6. 6 5 3. 3 |

(一) ミキ デラノカネノ ネー スミシタルユフク
 (二) いま もなほみにしむ あはづののあきか
 (三) ツキ ノカガキヤカ ニー スミノボルイシヤ

2- 0 1. 2 | 3 2. 1 6 2. 2 | 5- 0 1. 2 |

レー ハツ カリモ カタタ ニー コエ
 ゼー いづ かたぞむかし のー くれ
 マー チヨ カケテ シノブ ハー ムラ

3 5. 5 2 2. 3 | 1- 0 2. 2 | 2- 1. 1. 2 |

タ テ テ オ サ キ ヌー ヒ ト リー タ テ
 ひ ら の い し ぶ みー せ た のー ゆ ふ
 サ キ ノ ソ ノ フ テー ヤ マ ダー ヤ マ

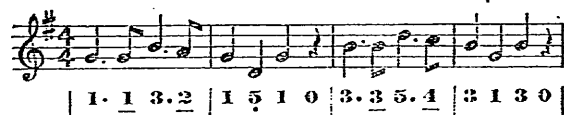
3- 0 3. 4 | 5 5. 3 6 5. 5 | 3- 0 5. 5 |

ルー カ ラ サ キ ノ ま イ マ ツー ア メ
 ひー と こ し へ に さ び し くー ひ ら
 セー ミ エ ヲ タ ル ナ ド コ ロー サ シ

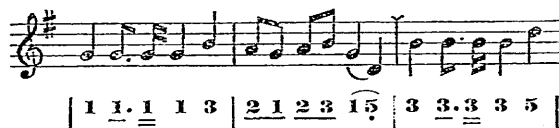
2- 3. 2 | 1- 0 6. 6 | 5 1. 3 2 5. 5 | 1- 0 ||

カー ナ ミ カー サ ビ シ グ ニ ビ ク ハー
 のー ぼ せ つー い つ み て も う つ く しー
 テー カ ヘ ルー フ ネ ノ ホ モ ミ ツ ヨ ツー

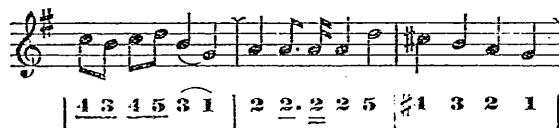
御國の民



(一) ミクニノタミヨ ヲガハラカラヨ
 (二) みくにのたみよ わがほらからよ
 (三) ミクニノタミヨ ヲガハラカラヨ



クニノタメ ツーケーセー キミノタメ
 つつのおと ひーびーきー ときのこ点
 アラナフキ マーキーター テキノハタ

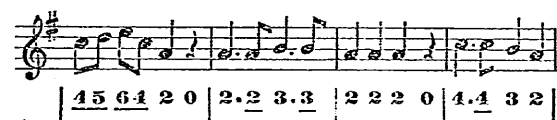


ツーケーセー イヘノタメ ミノタメ
 きーこーゆー きみのため こころを
 ナービーグー クニノタメ ヲガミチ

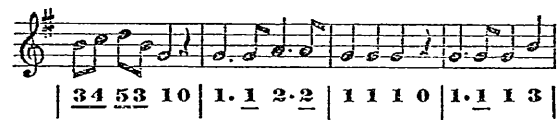


ツーケーセヨ ツクセ ヤダマフル
 つーくーせよ つくせ かばねつむ
 ツーケーセヨ ツクセ コホリタル

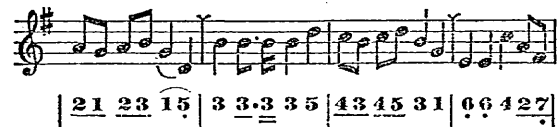
御國の民



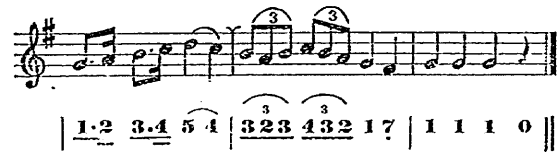
ナーカーモ ガソレズ ススメ タチウツ
 やーまーも ふみこえ すすめ ちしほの
 ウーミーモ イキマキ ヲタリ サバクノ



シーターモ ヒルマズ ススメ アサヒノ
 かーばーも をどりて すすめ あさひの
 ナーカーモ イトハズ ススメ アサヒノ



ハーターノー ヒルガヘル トーコーロハ コレワガー
 はーたーのー ひるがへる とーこーろは これわがー
 ハーターノー ヒルガヘル トーコーロハ コレワガー



クーニゾー ミーナー リガ クニゾ
 くーにーぞー みーな わが くにぞ
 クーニゾー ミーナー リガ クニゾ

御國の民

(一) 御國の民よ。わが同胞よ。

國のため盡せ。君のため盡せ。

家のため、身のため、盡せよ。盡せ。

矢玉ふる中も怖れず、進め。太刀うつ下もひるまず進め。

旭の旗のひるがへる處は、これわが國ぞ。皆わが國ぞ。」

(二) 御國の民よ。わが同胞よ。

つゝの音ひびき、関の聲きこゆ。

君のため心を盡せよ。つくせ。

屍積む山も踏み越え、進め。ちしほの川も躍りて進め。

旭の旗のひるがへる處は、これわが國ぞ。皆わが國ぞ。」

(三) 御國の民よ。わが同胞よ。

暴風ふきまきて、敵の旗靡く。

國のため、わが身を盡せよ。盡せ。

氷りたる海もいきまき渡り、沙漠の中もいとほず進め。

旭の旗のひるがへる處は、これわが國ぞ。皆わが國ぞ。」

都の雪



1. 1. 1. 3. 5. 5. 5. | 6. 6. 6. 6. 5. 5. 3. |
 (一) チ カ ベ ノ マ ツ ニ サ ツ ギ シ カ セ ノ
 (二) フ リ ク ル ヲ ヲ キ ナ ハ ラ ビ モ ア ヘ ス
 (三) シ ロ ガ ネ シ テ ハ レ ニ ク ヲ ヒ カ
 (四) ヲ キ ヲ リ ス コ キ ツ ム ツ



5. 5. 1. 1. 6. 6. 6. | 5. 5. 3. 2. 1. 1. 1. |
 オ ト シ ツ マ リ テ ア ケ ヲ ク ミ ソ ラ
 ツ も る う ち み の ア タ う ち と リ エ
 チ マ ダ ハ ナ カ キ ジー ム の ミ シ
 は な よ り あ か き



2. 2. 1. 2. 3. 3. 5. | 5. 5. 3. 5. 6. 6. 6. |
 ガ チ ョー ノ ハ ネ ノ ソ レ ヲ ヲ カ ロ タ
 カ ド キ あ げ し ヲ カ ほ ノ ギ シ の
 ア シ タ シ ズ ケ キ ミ ヤ コ ノ ソ ラ ニ
 こ る に か か る う き ヲ も は れ て

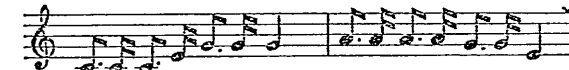


6. 6. 5. 6. 1. 1. 1. | 1. 1. 6. 1. 2. 2. 2. |
 チ リ ク ル モ ノ ハ サ グ カ ヲ タ カ
 ヲ キ ニ ヲ ア ノ さ の ナ キ ヲ シ
 カ ガ ヒ ア と げ たり

都の雪 (つづき)



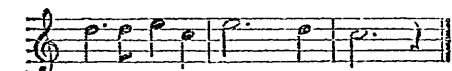
3. 3. 2. 1. | 6. 1. 5. 1. | 3. 3. 2. 2. | 1. 0. |
 ミ ル ミ ル ア メ ツ チ シ ロ タ ヘ ニー
 ま つ か ぜ さ び し き セ ン が く じー
 ム サ シ ノ イ リ ヲ ミ ナ ミ タ タ テー
 ヲ キ キ も に ぎ は ふ さ く ら だ のー



1. 1. 1. 3. 5. 5. 5. | 6. 6. 6. 6. 5. 5. 3. |
 ウ モ レ テ キ ヲ キ ア シ タ ノ ナ が メ
 あ と と ふ ひ と の な み だ は い か に
 チ サ マ ル ミ ヲ ノ ソ ノ ヲ タ ケ サ チ
 も ん に て む か し た か た る ば た れ ぞ



1. 1. 2. 2. | 3. 3. 2. 1. | 6. 6. 5. 5. 6. 6. 1. 1. |
 イ ザ ロ ガ ム カ シ ノ ア ト チ モ タ プ ネ ン
 み よ み よ な ら べ る セ き の お も て セ ル
 ア メ サ ヘ ツ チ サ ヘ シ メ テ フ ラ セ ル
 わ す れ ね れ き し の か た み た の こ せ る



2. 2. 3. 1. | 3. 2. | 1. 0. ||
 コ ノ キ フー ミ テー
 う し め も じ なー
 コ ノ ユ アー ハー レー
 ま つ が あー は

都の雪

- (一) 岡邊の松にさわぎし風の音しづまりて、明けゆくみそら、
鶯鳥の羽のそれより軽く、ちりくるものは、櫻か、綿か。
見るく天地しろたへに、うもれて、清きあしたの眺。
いざ、わが昔の跡をも尋ねん、この雪ふみて。」
(二) ふりくる雪を拂ひもあへず、つもる恨の仇うちとりて、
かちどきあげし赤穂の義士の雪にもまさるその名の清さ。
松風さびしき泉岳寺、あととふ人の涙は、いかに。
見よ、見よ、竝へる石碑のおもてに、うもれぬ文字を。」

(第七集)

(第七集)

- (三) 白銀しきて晴れゆく雪のちまたは、塵のけがれも見えず。
あした静けき都の空に、かがやく朝日、うつくし清し。
武藏の入海波立たで、治る御代のそのゆたけさを、
天さへ地さへ示して、降らせる、この雪あはれ。」
(四) 雪よりすこき劔の光、花より赤き丈夫の血しほ。
心にかゝる浮雲はれて、思は遂げたり、君家のために。
ゆきききにぎはふ櫻田の門にて、昔を語るは、たれぞ。
わすれぬ歴史の形見をのこせる、松が枝あはれ。」

教育唱歌全八冊

明治二十九年一月二日第一集	印刷
明治二十九年一月十日第一集	發行
明治二十九年五月十五日第二集	印刷
明治二十九年五月廿六日第二集	發行
明治二十九年八月一日第一集訂正再版發行	發行
明治二十九年十二月廿五日第二集訂正再版發行	發行
明治三十年十二月十五日第二集訂正三版發行	發行
明治三十年十二月廿五日第一集訂正三版發行	發行
明治三十一年七月五日第二集訂正四版發行	發行
明治三十八年八月十七日修正五版發行	發行
明治三十九年一月廿五日訂正六版印刷	印刷
明治三十九年一月廿八日訂正六版發行	發行

定價各冊金拾八錢

著作權所有★不許拔萃

編輯者 教育音樂講習會

發行者 西野虎吉
東京市小石川區小日向水道町七十三番地

印刷者 野村宗十郎
東京市京橋區築地三丁目十五番地

發行所 東京開成館
東京市小石川區小日向水道町七十三番地
電話特番町三五五番

發行者 大阪市心齋橋通北久寶寺町角
大阪開成館 三木佐助

發行者 東京市日本橋區通三丁目
六合館 林平次郎

小林